

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。

今回は、静岡県焼津市立大井川西小学校教諭・殿岡正英先生が、6年生の総合的な学習の時間に新たな単元開発として取り組んだ金融教育についてご紹介します。

※殿岡先生はこの実践をまとめた小論文で、「金融広報中央委員会主催『金融教育を考える』第8回小論文コンクール」(2011年度)特賞を受賞されました。

スーパーの棚から物がなくなつた体験が授業のきっかけに

殿岡先生の勤務する焼津市立大井川西小学校の校区は、江戸時代中期の城主・田沼意次ゆかりの田沼街道沿いに位置しています。2000年に行われた「東海道400年祭」を機に、10年以上にわたって地域と学校が一体となった「街道カーニバル・こども門前市」に取り組んできました。この伝統行事では、毎年6年生が地元商工会の人たちと門前市を開きます。1〜5年生の間は買い物客として参加する子どもたちにとって、6年生になって売り手を体験することは憧れでもあり、6年生には修学旅行と並ぶ人気行事となっています。

例年、同校ではこの行事に合わせて、



田沼街道の歴史を調べる学習などが行われてきました。しかし、11年度に6年生を担当することになった殿岡先生は、「総合的な学習の時間」を利用して、「こども門前市」を活用した金融

教育『西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済』を行うことを決定しました。それは、同年3月11日に発生した東日本大震災によって、焼津市内でも一時的な「買いだめ」に

静岡県
静岡県焼津市立大井川西小学校
殿岡正英教諭

■6年生 総合的な学習の時間の計画『西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済』

題材名	西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域商店での聞き取り調査や個人テーマにおける調査活動を通して、問題解決に必要な情報を集めることができる。 ・焼津信用金庫による金融教室や静岡財務局による経済教室で需要と供給の関係を学び、経済の仕組みとはたらきについて考えることができる。 ・日本銀行の見学や街道カーニバルでの販売などの体験的な活動を通して、経済についての興味・関心を高めることができる。 ・個人テーマで調べたことや体験的な活動をまとめ、発表することができる。
学習計画	<p style="text-align: center;">経済の仕組みを調べよう!</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>5月 スーパーから消えたものは (商店での聞き取り調査) 調査1「東日本大震災後にスーパーから消えたものはなんだろう」 東日本大震災後にスーパーやコンビニから消えたものを商店で聞き取り調査をする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>6月 金融教室で学ぼう (焼津信用金庫による金融教室) 調査2「ものの値段は、どのようにして決められるのだろう」 ものの値段は、材料費・人件費・輸送費など様々な要素で決定されることを理解する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>7月 経済教室で学ぼう (静岡財務事務所による経済教室) 調査3「需要と供給のバランスが崩れるとどうなるのだろう」 インフレーションやデフレにより物価(ものの値段)がどのように変化するか調べる。</p> </div> <p style="text-align: center;">日本銀行について調べよう!</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>8月 日本銀行の役割を調べよう (夏休みの課題・個人テーマ) 調査4「インフレーションやデフレの物価安定における日本銀行の役割を調べよう」 個人テーマを設定し、インターネット検索や書籍による調査活動に取り組む。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>9月 日本銀行を見学しよう (修学旅行時の見学) 調査5「日本銀行にはどのような施設・設備があるのだろう」 日本銀行を見学し、その役割から施設や設備についての理解を深める。</p> </div> <p style="text-align: center;">街道カーニバルを成功させよう!</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>10月 街道カーニバルの準備をしよう (大井川商工会による商業教室) 調査6「仕入れ・販売・サービスについて調べよう」 商品の仕入れ・販売方法・サービスなどから、値段の決め方を考える。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>11月 街道カーニバルを成功させよう (街道カーニバル販売体験) 調査7「どのようにして商品の値段を決めればいいのか」 需要と供給のバランスから適正な市場価格を考え、商品販売の体験をする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>12月 調べたことを発表しよう (参観会でのコーナー発表) 「個人テーマ」「日本銀行について調べたこと」「街道カーニバル販売体験で学んだこと」などを、各コーナーごとに発表する。</p> </div>

【外部機関】

- 6月 (金融教室外部講師) 焼津信用金庫
- 7月 (経済教室外部講師) 静岡財務事務所
- 9月 (修学旅行時の見学) 日本銀行 ※見学中止
- 10月 (商業教室外部講師) 大井川商工会
- 11月 (販売体験外部講師) 大井川商工会

※日本銀行は、東日本大震災による電力不足の節電対策のため、7月から9月までの3ヶ月間すべての見学受け入れを中止した。このため、9月の修学旅行時における日本銀行の見学は実施できず、かわりに、日本銀行より「知るほど なるほど!日本銀行」のビデオを借り学習を進めた。また、日本銀行のホームページより「バーチャル見学ツアー」も活用した。

よる物不足が起こったことがきっかけでした。
 カリキュラムはまず、震災後の地元スーパーで、棚から商品がなくなっ

しまった写真と、「商品の供給が間に合わない」という店内の掲示を見せ、「なぜこういうことが起こったか?」「需要と供給とは何か?」について調べ

ることからスタートしました。
 子どもたちは、「スーパーから消えたものは?」をテーマにスーパーやコンビニでインタビュを行い、「震災後は、

焼津でも水、パン、乾電池、カップラーメンなどの物不足が起こったこと」「商品は店頭だけでなく問屋や工場にもなかったこと」など地元の声を集め、意見交換を行いました。

「小学生の場合、自分で調べたり、自分で見聞きしたりした学習の成果は非常に大きいものです。子どもたちはお店の人から直に話を聞き、物不足の大変さを切実に感じたのだと思います」と殿岡先生は振り返ります。

『需要と供給』『インフレ・デフレ』にも深まる理解

導入段階の授業の最後に、殿岡先生は、消費者側からだけでなく、売り手の視点でも「需要と供給」を考えさせようと、子どもたちにヒントを出します。

「きみたちも今度、売る側の人間になるよね?」と。ここで子どもたちは、この学習が秋の「こども門前市」につながっていくことに気づき、がぜん学習意欲が高まり、真剣さを増したといえます。

6月には、地元の焼津信用金庫の職員が「ものの値段は、どのようにして決められるのだろう」をテーマに金融教室を開催。7月には静岡財務事務所による「需要と供給のバランスが

崩れるとどうなるのだろう」をテーマに経済教室を開きました。

子どもたちは、商品の価格は、人件費・材料費・輸送費など、さまざまな要素を含めて決められていることを知り、次に「商品は安ければ安いほどいいのか?」と考えを展開。さらに、インフレやデフレにより物価がどう変化するか、学びを深めていきました。

「正直なところ、小学生には難しい題材だと思っていました。ところが、物価の変動によって、働く従業員の給料にも影響することや、物価は高くても安くてもよくないのだと、小学生なりに正しい理解が深まっていました」と殿岡先生は期待以上の効果を実感したといいます。

「こども門前市」では学びの成果と本領を発揮

後期は、いよいよ11月の本番に向けた準備が始まりました。まずは地元商工会の協力により、「仕入・販売・サービス」について調べよう」をテーマに、商業教室が行われました。

子どもたちは、前期で学んだ経済の仕組みを踏まえ、「仕入と販売価格」をおさらい。さらに、お店の「サービス」が販売費（もうけ）につながることを学び、門前市でのよりよいサービ



学習計画12月の「調べたことを発表しよう」保護者会での個人テーマの発表用資料。子どもたち一人一人が、自分のテーマについて調べ発表の根拠となる資料を模造し1枚にまとめた

ス方法についてアイデアを出し合いました。結果、POPや看板に工夫を凝らしたり、ゲームやおまけを取り入れたりなど、集客のアイデアも集まりました。

本番は、2クラス68人が11班に分かれ、菓子、乾物、しょうゆ、お茶、文房具、肉屋、魚屋（金魚すくい）など、さまざまな担当ブースでの販売体験です。呼び込みで店のPRに声を張り上げ、出張販売に出歩くなど、子どもた

ちは大活躍。地域をあげての人気イベントだけに来場者も多く、大盛況に終わりました。

その様子を殿岡先生は、「終盤には



売れ残り商品の割引をしていたのですが、子どもたちはきちんと原価を意識した販売を行っていましたね。物の値段の勉強をした自負からか、自信を持って堂々と行動していたのが印象的でした。商工会の方々からも、『例年の子どもたちとは違うね』という評価もいただきました。

12月には保護者の参観会で、子どもたちは個人テーマを設定しそのテーマについて調べ、学習の成果を模造紙1枚にまとめて発表、学習をしめくくりました。

その際も、「小学生でここまで理解ができるのか」という驚きの声もあり、殿岡先生は、「総合的な学習のねらいである、『自分で課題を見つけて』『調べて』『まとめる』というサイクルを達成するには十分な題材でした」と話します。

子どもをやる気にさせた 金融教育の総括

例年は6年生の楽しい販売体験というイベントだけで終わっていた「子ども門前市」が、年間カリキュラムの金融教育として成功した背景には、震災

後の「物不足」という思いがけない出来事が、恒例行事の「子ども門前市」への大きな動機付けとなったということが挙げられます。

また今回、焼津信用金庫や静岡財務事務所、地元商工会では、殿岡先生の依頼を快諾し、ゲストティーチャーとして「学習のねらい」と「小学6年生の発達段階」に合った授業内容を工夫してくれるなど、大きな協力もありました。

「外部講師を迎えた授業は、いつもの授業以上にインパクトがあり、いつも興味関心が高まったと思います。先生同士の間でも、「身近な題材が経済学習につながる興味深い事例」として、この単元開発は高い評価を得ました。

殿岡先生は、「子どもたち全員が関心を持って学べる学習は多くありません。今回は『子ども門前市』というイベントを成功させようという統一した目標があったことが、学習へのモチベーションを高めるきっかけとなりました。金融教育におけるひとつの単元例として参考になれば嬉しいですね」と話しています。

「需要と供給って何？」

～子どものやる気を喚起する金融教育の単元開発～

静岡県

静岡県焼津市立大井川西小学校 殿岡正英教諭